

第2章 交通バリアフリー化に向けた基本的な方針

2.1 交通バリアフリーに係わる現状と課題

(1) 二宮町の交通等の現状

二宮町内にある鉄道駅は JR 東海道線の二宮駅の 1 駅のみであり、路線バスが町内の主な公共交通機関となっている。

二宮町の市街地は、二宮駅周辺や国道 1 号沿道の平野部の市街地と、大規模開発により形成された百合が丘地区、富士見が丘地区、緑が丘地区といった丘陵部の住宅地に大きく分けられる。

これらの丘陵部の住宅地に、町内の約 4 割程度の人に住んでおり、また、最も早くに開発された百合が丘地区や富士見が丘地区では、高齢化率が約 30%に達している地区もある。これらの丘陵部の住宅地や国道 1 号沿道等の市街地と二宮駅とは、路線バスにより結ばれている。また、コミュニティ福祉バスも、現在、実験運行されている。

(2) 町民の外出の現状と交通バリアフリーに対する意向

アンケート調査結果から町民の外出状況について見ると、外出の目的は「日常品の買い物」が最も多く、行き先としては「町内大型小売店舗」となっている。

外出の目的として 2 番目に多いのは、健常者が「通勤・通学」、障害者が「通院」、高齢者が「趣味・娯楽」となっており、高齢者や障害者も「通院」等の目的により、町外への外出が見られる。

また、よく利用する公共施設として、「生涯学習センターラディアン」が挙げられている。

外出の際に利用する主な交通手段は、「自家用車」が最も多く、次に「電車」「徒歩」となっている。「路線バス」は高齢者、障害者に比較的利用されているが、路線網や運行本数といったことが問題点として指摘されている。

交通のバリアフリー化推進にあたって最も重要な点としては、「駅や車両・道路等での物理的な障害の解消」が挙げられており、具体的には、「エレベーター、エスカレーターの設置」「ノンステップバス等車両の改善」「駅でのトイレや休憩施設等の設置」が望まれている。

また、バリアフリー化すべき具体的な場所として、「道路」「駅北口広場」「二宮駅自

由通路」「二宮町役場」が挙げられている。

(3) 交通バリアフリーに係わる課題

以上の現状を踏まえ、二宮町における交通バリアフリーに係わる課題を整理すると、次のとおりである。

- ・ 町内の主要な公共交通機関である路線バスを、より利用しやすくする必要がある。
- ・ 路線バスと鉄道の乗り継ぎを円滑にするため、北口駅前広場の整備と二宮駅自由通路のバリアフリー化が必要である。
- ・ 人が集まる二宮駅前から、よく利用される施設である生涯学習センターラディアンや、二宮町役場等の主要な公共施設への経路について、安全で円滑に移動できる環境の整備が必要である。
- ・ 高齢者や障害者がより外出しやすい環境をつくるため、トイレや休憩施設等を整備する必要がある。
- ・ 買い物や通院など日常生活に必要な外出をよりしやすくするため、高齢化が進む丘陵部の住宅地と町の中心である駅前地区や町内の主要な施設を結ぶ、誰もが利用しやすい交通機関の整備が必要である。

2.2 駅及び駅前広場等の現状

(1) 駅及び自由通路の現状

- ・ 二宮駅は橋上駅舎のため、北口・南口～改札口、改札口～ホームに高低差がある。
- ・ 改札口～ホームには、階段、エスカレーターが設置されているほか、エレベーターによる垂直移動が可能である。
- ・ 北口・南口～改札口には、車いす対応のエスカレーターが設置されているが、利用時間に制限がある。また、エレベーターは設置されていない。
- ・ 視覚障害者誘導用ブロックが、北口・南口～改札口～ホームに連続して敷設している。
- ・ 改札口付近及びホームには、可変式情報表示装置が設置されている。
- ・ 改札内にトイレが設置されているが、入口に段差がある。また、障害者用トイレは設置されていない。

(2) 北口駅前広場の現状

- ・ 北口駅前広場は都市計画決定されているものの暫定整備であり、「二宮駅北口広場整備検討委員会」により整備計画の見直しが行われた（図 2.2 参照）。
- ・ 現状の広場内には、バス乗降場、タクシー乗降場、タクシープールが配置されている。
- ・ バスのりばには広場内の横断歩道を渡らなければならない。また、バスの降車はタクシー乗降場に近いため、回転スペース上で行われている。
- ・ 一般車の乗り降りは、広場手前の二宮国府線で行われている。
- ・ 広場内には、車いす対応のトイレが設置されている。

(3) 南口駅前広場の現状

- ・ 南口には駅前広場が整備されており、バス乗降場、タクシー乗降場、タクシープールが配置されている。
- ・ 自由通路の下にトイレが設置されているが、障害者用トイレは設置されていない。

図 2.1 二宮駅・駅前広場の現状

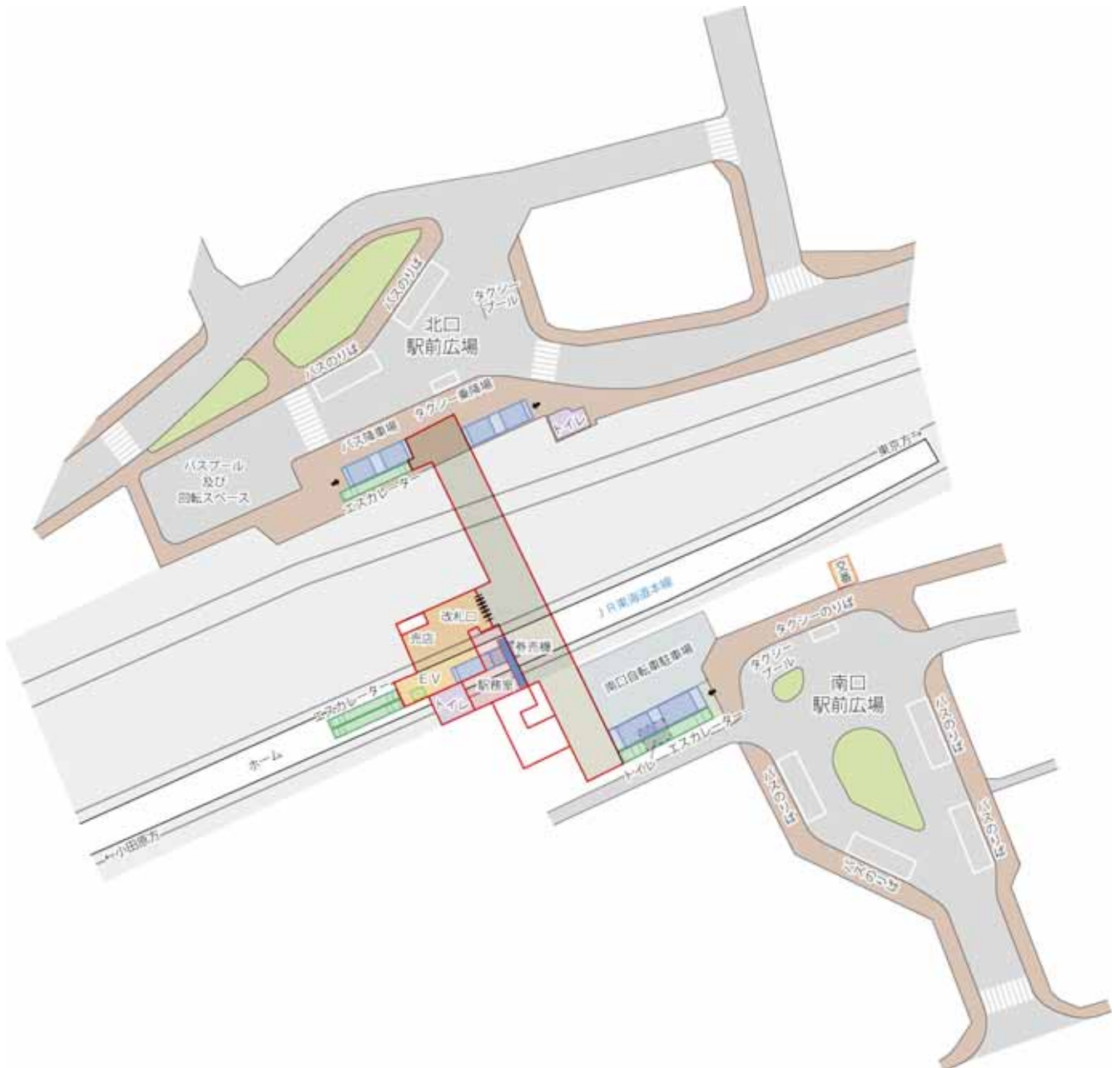
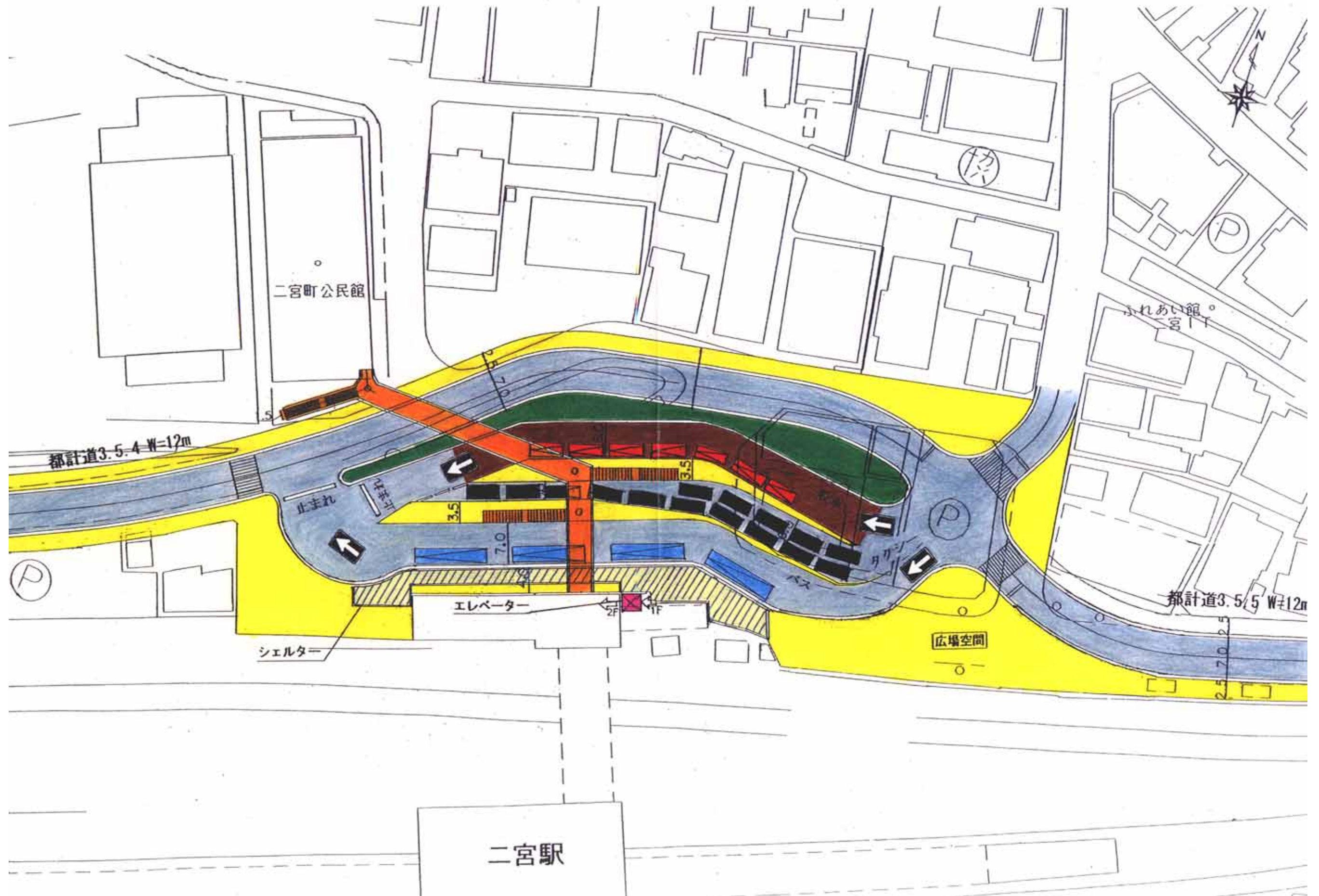


図 2.2 北口広場の計画 (案)



2.3 駅周辺の現状

(1) バス路線

二宮駅周辺の路線バスは、神奈川中央交通及び湘南神奈交バスにより運行されている。ほとんどの路線が JR 二宮駅を起終点としており、二宮駅北口から 20 系統、二宮駅南口から 14 系統が運行され、主に町内の住宅団地を結んでいる。

(2) 歩道の整備状況

二宮駅周辺の歩道の整備状況は、国道、県道、主要な町道には歩道が設置されているが、駅北側の商店街等には歩道は設置されていない。

(3) 施設の分布状況

二宮駅から概ね半径 1 km の範囲にある主な施設は、表 2.1 に示すとおりである。

二宮駅の近くには、二宮町役場、社会福祉センターなどの行政・福祉施設があるほか、駅北側約 500m の位置に生涯学習センター「ラディアン」、図書館などの文化施設がある。

表 2.1 二宮駅周辺の主な施設

種 別	施設名称	施設数
行政施設	1) 二宮町役場 (200) 2) にのみや町民活動サポートセンター (100) 3) 二宮郵便局 (700) 4) 二宮元町郵便局 (700) 5) 二宮町消防署 (1100) 6) 元町北防災コミュニティーセンター (950) 7) ITふれあい館 (100)	7
福祉施設	8) 保健センター (900) 9) 地域包括支援センターつばき (200) 10) 社会福祉センター (250) 11) 下町老人憩の家 (600) 12) 梅沢老人憩の家 (800) 13) 元町老人憩の家 (400) 14) 社会福祉協議会 (900) 15) 地域型在宅介護支援センターもとまち (850) 16) 心泉学園 (300)	9
文化施設	17) 生涯学習センターラディアン (500) 18) 図書館 (500) 19) 公民館 (50) 20) 武道館 (300) 21) 町立体育館 (1150) 22) 袖が浦プール (350) 23) 中町公会堂 (200) 24) 吾妻山公園 (600) 25) 二宮果樹公園 (650)	9

()内の数字は、二宮駅からの直線距離 (単位：m) である。

2.4 基本理念と基本方針

(1) 基本理念

人にやさしいまちづくり整備計画では、まちづくりの基本理念を次のように設定している。

高齢者、障害者、健常者の区別なく、すべての人が社会に参加し自立して、いきいきと生活できる、誰もが住み良いまちづくり

本基本構想においても、この基本理念に基づき、交通バリアフリー化に向けたまちづくりを推進していくものとする。

(2) 基本方針

二宮町の交通バリアフリーに係わる現状と課題を踏まえ、上記の基本理念を実現していくための基本方針を次のように設定する。

①すべての人を対象にしたバリアフリー化の推進

本基本構想では、高齢者や障害者をはじめ、病気やけがをした人、妊産婦、子連れの人、荷物を持った人、外国人など、すべての人を対象として、バリアフリー化を推進する。

②ユニバーサルデザインに基づく交通環境の整備

「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方にに基づき、高齢者・障害者をはじめ、誰もが利用しやすい公共交通機関と歩きやすい歩行空間の整備を推進する。

③段階的な整備の推進

まち全体をバリアフリー化するまでには長い時間が必要となる。本基本構想では、交通バリアフリー法の趣旨を踏まえつつ、短期間で効果を上げるため、町の中心であり、人が集まる二宮駅周辺を重点整備地区に指定し、当該地区のバリアフリー化を優先的に推進する。

長期的には、バリアフリー化された重点整備地区を核として、まち全体へバリアフリー化を広げていくように段階的な整備を推進する。